

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	1	選択
担当教員			
船越 理恵			
G (現代ビジネス学科)	S (専門科目)	BS (社会人基礎)	109 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	「小論文」「レポート」「論文」など学問的な文章の作成方法について基礎から学ぶ。学問的な文章特有の形式をふまえながら、自らの考えや主張を読み手に明確に伝えるための書き方を身につけていく。講義では課題演習の取り組みなどを通じて、学生一人ひとりの主体的参加を促すアクティブラーニングのスタイルを採用する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の目的、進め方、評価方法、履修上の注意を確認していく。	
		予習 (時間) シラバスの内容に目を通し、当該科目に関連する自分なりの課題や目標について考える。(90) 復習 (時間) オリエンテーションの内容を振り返り、当該科目を通じてどのような課題と向き合い、克服していくかを決定する (90)。	
	第2回	学問的な文章とは① 小説や日記など多種多様な文章と学問的な文章の比較を通じて、学問的な文章の特徴を理解する。	
		予習 (時間) インターネット上で公開されている論文の中から、興味を感じる分野のテキストを検索する。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第3回	学問的な文章とは② 「小論文」や「論文」とは何かを理解する。	
		予習 (時間) インターネット上の公開論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第4回	論文の書き方① 言いたいことが伝わる文章の書き方を学ぶ。	
		予習 (時間) インターネット上の公開論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第5回	論文の書き方② 実際の論文を参考にしながら、論文のプロットについて学ぶ。	
		予習 (時間) インターネット上の公開論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第6回	論文の書き方③ 第一プロットの機能を理解し、実際に書いてみる。	
		予習 (時間) インターネット上で公開されている論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第7回	論文の書き方④ 第二プロットの機能を理解し、実際に書いてみる。	
		予習 (時間) インターネット上で公開されている論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第8回	論文の書き方⑤ 第三プロットの機能を理解し、実際に書いてみる。	
		予習 (時間) インターネット上で公開されている論文の中から、興味を感じる分野のテキストを最低1本読む。(90) 復習 (時間) 授業内容において理解が浅い部分があるかどうか見返し、必要箇所を復習する。(90)	
	第9回	課題演習① 提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。	
		予習 (時間) 課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。(90)	

第10回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習②</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p>
第11回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習③</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p>
第12回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習④</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p>
第13回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習⑤</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p>
第14回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習⑥</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p>
第15回	<p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p> <p>課題演習⑦</p> <p>提示した課題について、論述を実践する。書き終えた文章については学生間で共有し、気が付いた点をフィードバックし合う。</p> <p>-----</p> <p>予習（時間）課題演習のテーマについて、あらかじめ情報を集め、自身の見解と向き合う。（90）</p> <p>復習（時間）自分の文章に対するフィードバックの内容を再度確認し、文章に修正を反映させる。（90）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	本授業ではDPに記載される「学び続ける姿勢」を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学問的な文章の特徴と作成方法を理解する。</li> <li>・自分の考えを筋道立てて書く技術を身につける。</li> <li>・自他に対し説得力のある文章が書けるようになる。</li> </ul>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	提出課題については修正の上、次の授業時に返却し、必要に応じて個別に補足説明を行う。全体に共通する課題点や注意点については授業内にて解説する。
履修上の注意	履修者は各自、ノート、配布物を管理するファイルを用意する。
成績評価の方法・基準	授業中に実施する演習課題の結果30%、学修意欲30%、最終課題の結果40%
教科書	教科書は使用せず、適宜、授業内容に添った補足プリントを配布する。
参考書・教材	飯間浩明『伝わるシンプル文章術』（2018）株式会社ディスカバー・トゥエンティワン
備考	履修者の人数や状況等によって授業計画を見直し、学生に告知した上で、一部を変更したり順番を入れ替える可能性がある。
教員との連絡方法	メールを採用。連絡先アドレスは授業内にて周知する。